

環境精神、倫理という無形文化遺産

研究の概要

自然界とのつながり感は今日、近代化、技術化、またグローバル化に伴いうすれつつありますが、同時に環境への配慮は産業活動だけでなく、あらゆる人間活動において意識、要求されつつあります。

このつながり感は実は「配慮」という倫理、責任、尊重意識の根底にあるもので、それは、また音やにおいなど感覚レベルでの認識するものでもあります。地域の特色としては建築文化財、美術品などの文化財などは取り上げられますが、自然と共生してきた（している）人々の生き方、精神性、感覚的知識や判断力などは「無形」であるがためにその価値が理解されにくいものです。が、そのような精神性こそが「持続性」の基本であり、環境保全の根本的要素であるといえます。特に自然資源利用（漁業、林業など）においては、古来からの持続的利用の事例は多く、それが消えつつあるのも事実です。そのような文化遺産にある人間の精神性を「無形文化」として捉え、さらにそれを音、映像など美しいもので表現することにより、文化理解を深め、地域の特徴を強調していくことを目指します。

こんな課題解決のために

地域の活性化、自然環境と文化遺産の保護を地域活動として、クリエイティブな視点をもってデザインする。例えば以前日本の環境省が行ったような「音風景、かおり風景」（後世に残したい大切な音や香りがある風景）の一般募集などは、地域の大切な特色（自然とそれに関する産業やレクリエーション活動）を見直し、それを保全していく手立てを地域住民が考えるというクリエイティブなアプローチです。また、環境保護を共通課題とした文化交流は、孤立しがちな地方のコミュニティを環境保護を通してつなげるにより情報交換、相互支援を図り、さらには共同プロジェクトの計画にもつながっていきます。（<http://www.bunkanken.com/journal/article.php?id=288>）このように共通の目的意識を持った文化交流は効果大だといえます。異なった文化の提携は互いのよさを認め、新しい視点を獲得することで更に新しいエネルギーへとつながっていきます。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

A オーストラリア、クイーンズランド州政府提携事業

- 1) 「サウンドガーデン」(州都ブリスベン市内中央公園に「リスニングスペース」心と体の癒し空間作り、
- 2) 「150の大切な音」(州独立150周年記念事業として、州市民が選ぶ大切な音とその音源である自然、文化遺産の保護。市民が価値を見出す地域の特色とは何か、それを介してのつながり感を探る。選ばれた音は、市民ホットラインの電話音や横断音として利用される予定。



Cultural exchange for conservation
10-11 July, 04

B オーストラリア、タスマニア州政府提携事業

- 1) アートフェスティバル「環境アートデイ」(地域市民による音風景づくり)、
- 2) こだまの森プロジェクト (www.bluetier.org/harp)



C 三重県鳥羽市菅島町「海女文化」調査

海女の磯笛の音風景を人間と環境のつながりの音ととらえ録音、フィールド調査。結果はオーストラリア国営放送ABCラジオのドキュメンタリーとそのCD (<http://www.abc.net.au/rn/radioeye/stories/2007/1957039.htm>)

研究者からのメッセージ

環境保護は地域のよさが地域の人々によって大切にされることです。また、自然だけでなく文化、伝統そして人々の精神性を守ることも「持続性」の一つの大切なカギです。研究を通して地域の魅力発見に貢献できれば幸いです。

研究分野 : 環境と文化

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学観光学部 観光学科・教授・加藤久美

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp